

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 しらかば		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	令和2年5月1日	評価結果市町村受理日	令和2年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kan=true&JigyosyoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年7月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主に朝・夕の申し送りの時に事業所理念を読み上げることで共有や確認を行っている。職員はその事業所理念を念頭に置きながら利用者との関わりの中で実践につなげられるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会からイベントや1円玉募金等の呼びかけに對してできる範囲で参加している。散歩中に近隣の方と挨拶を交わしたり、他事業所に車椅子用の体重計を借りに行く等日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域行事への参加、近隣への散歩など、職員と利用者が関わる場面を地域の方が目にするので少しでも認知症の理解に繋がるよう意識して取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では行事や事故、日常の取り組み等事例や画像を用いて解りやすく報告している。一方的な報告ではなく、家族や他事業所の方々との意見交換も行っており日々のケアに活かせるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口となり、事故報告や生活保護関係、オムツサービスの利用等で市・区役所の担当者と関わっている。職員は直接関わることは殆どないが、管理者より報告を受けることで把握に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置に伴い、話し合う・考える機会は持っている。ホーム周辺の交通量が多いことから玄関は施錠せざるを得ない状況ではあるが、その分ユニット間の行き来や玄関先に出る機会を増やすことで閉鎖感を少なくしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修で取り上げられていたり、外部研修に参加もしており再確認や学ぶ機会は持っている。今後も事前対応を心がけ、虐待に繋がらないケアを行うと共に職員のストレス軽減に努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部や外部の研修で取り上げられていることもあり、少なからず学ぶ機会はある。しかし、それらの制度を利用している方がいない為内容の理解や把握までしている職員は殆どいないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に沿って管理者より説明を行っている。一方的に説明をするのではなく、過去の例や現状を踏まえながら質問に答えたり、利用者・家族の理解や同意を得ながらゆっくりと進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には管理者や職員から近況報告をすると共に意見や要望はないか伺うようにしている。利用者の方に関してもできる限り希望を聞き取り、運営に反映するよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話やユニット会議等における職員の意見や提案については随時管理者に伝えている。それをもとに管理者や代表者は必要に応じて、可能な限り反映できるよう考えたり、対応してくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、業務内容の見直しをしながらケアに取り組んでいる為休憩時間は確保されている。また、職員間で契約条件は異なるが勤務日数や休日・有給希望等相談したり、可能な限り希望に添えるよう考えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、内部研修を行っており様々な分野の内容について各職員が学べる機会がある。また、外部研修の案内が随時あり、適時参加することができている。学んだことは職員間で情報共有したり、日々のケアに活かすよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の家族が同業者であったり、運営推進会議に他事業所の方が参加している。また、外部の研修ではグループワークも増えており、同業者と情報交換を含めた交流が少なからず持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方に限らず、誰でも新しい環境には不安があり、慣れるまでに時間がかかる。まずは安心していただけるよう本人に寄り添ったり、言葉かけを多くするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する段階で要望や心配事等伺っているが、入居後徐々に気づくこともあり面会時には近況報告と合わせて話を聞くようにしている。特に初期の家族対応は慎重に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは新しい環境に慣れることを希望する家族が殆どであり、本人にとっても必要なことである。新しい環境で安心した生活を送ることができるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段からの関わりを通して各利用者と職員との関係性が程よく保っている。それに伴い、自然な形で助けられたり、教わる、喜ぶ、褒め合う等様々な感情を共有することができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際に近況報告を行っており、本人の今ある状態の把握や理解に繋がるよう努めている。また、合わせて希望や心配事はないか伺っている。どの家族においても関係は良好である為大切にしていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた場所やよく通っていたお店等普段の外出や行事の際に行くこともある。また、誰かが訪ねてきても個人情報の兼ね合いにより家族の許可があった場合に限り面会ができる状況にある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の様々な場面で利用者同士が関わりを楽しんでいたりと、時には助け合い、ぶつかり合う等個々に良い刺激を受けていると思われる。その中で職員は必要に応じて介入し、程よい関係を保てるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が対応しており、退居後も入居中の写真を渡したり、書類関係で家族と連絡を取り合うことはあるが頻度は少ない。しかし、いつでも相談や可能な限りの支援を行える体勢にはなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えや普段の関わりの中で思いや希望を聞いたり、探りながら個々の把握に努めている。意思疎通が困難な方についても家族に聞いたり、選択肢を設ける等工夫しながら取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にある程度、家族やその前に利用していたサービス担当者等より情報収集を行っている。入居後も関わりを通して少しずつ情報を得ており把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の気分や体調により一日の過ごし方に違いがある。特に体調面には配慮しつつ、本人のペースや希望に合わせて過ごすことができるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族より希望や要望を伺っている。日々の記録や口頭による情報収集、ケアプラン更新の際には介護計画の評価を行っている。それらをもとに各利用者の現状に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って取り組んだ内容、その時の本人の反応や変化等を記載している。記録の内容は十分とは言えないが、口頭による補足もしながら職員間で情報を共有し日々の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望はもちろん、ホーム側からも受けられるあるいは受けてはどうかというサービスがあれば提案している。現状では整骨院や市のオムツサービスを利用している方がいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や近隣の小学校からの呼びかけもあり参加している。場所により参加できる方は限られてしまうが、参加した利用者は他者との交流を楽しみ、良い刺激となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、訪問診療を受けているが事前にFAXで近況報告を行うことで当日、スムーズに診察を受けることができている。各利用者に合わせて内服の調整や点滴を受ける等柔軟に対応してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を受けている。特変があった方を中心に近況報告を行い、看護師との情報交換に努めている。また、看護師に気軽に相談することができ、それを支援に活かすことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間が1ヶ月を過ぎると退居となってしまうことから、主に管理者が窓口となり病院側の担当者と情報交換を行うとともに早期の退院ができるよう努めている。職員は情報をもとに本人の状態把握に努め、退院後の受け入れ準備をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約から伝えており、早い段階から本人や家族の意向を確認するよう努めている。「その時になってみないと判断出来ない」といった家族の返答も多く、体調に大きな変化がみられた際に改めて話し合う機会を設けていることが多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はマニュアルを準備していても緊急時対応に不安を感じているため、定期的に確認する機会を設けている。また、可能な限り事前の対応で防ぐことができるよう日々取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まずは火災を起こさないことを第一に考え、掃除及び環境整備にあたっている。定期的に自主避難訓練を行っているが、不安をもっている職員は少ない。今後も訓練を行っていくことは必要である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助時は羞恥心に配慮し、さりげない声掛け・対応に努めている。他者の事が気になる方もおり、場所を替えて対応、職員間で話す際も気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりを通して、本人の希望や思いを引き出せるよう取り組んでいる。また、希望を伝えることが困難な方にも選びやすい工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には業務の都合により待ついただくこともある。しかし、可能な限り各利用者の希望に合わせることはもちろん、平等な支援ができるよう考えながら対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問美容を利用して希望を伝える方もいる。行事の中でもネイルや化粧を提供したり、普段あまり着ることのない服を勧める等支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片づけまでを利用者間で分担しながら取り組んでいる。定期的に食事メインの行事を立案しており、目の前で作りながら食べることで会話が増えたり、五感への刺激にもなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供量の調整や食べやすい工夫、好みに合わせて品物を代える等各利用者に合わせて提供している。水分摂取でも同様に好む物を提供、場面転換を図る等しながら1日の必要量が摂れるよう勤めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や起床時、就寝時に個々に合わせた口腔ケアを行っている。訪問歯科のアドバイスも受けながら、洗口液、歯間ブラシ等の用具を使用できる範囲で口腔内の清潔が保てるよう取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し各利用者の排泄状況の把握に努めている。早めの声掛けや誘導はもちろん、本人のサインにいち早く気付くことで排泄の失敗を防ぎ、トイレで気持ちよく排泄ができるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取の促し等取り組んでいるが上手く自然排便に繋がらない方もいる。しかし、試行錯誤しながら個々に合わせた下剤の調整により上手く対応ができています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	平等に入浴ができるよう大まかな入浴日程を決めて取り組んでいる。しかし、希望や体調、失禁があった場合等その時の状況に合わせて柔軟に対応でき、入浴中は会話やスキンシップを大切に、1対1の時間を大事にするよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調を見ながら適度に静養していただいている。日中・夜間共に体位交換が必要な方は行って、安心・安楽に過ごすことはもちろん、褥瘡の予防や浮腫の軽減にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各利用者の薬の把握に努めており、服薬時の確認をしっかりと行い、適切に服薬ができるよう取り組んでいる。薬剤師との関係も良好であり気軽に相談やアドバイスを受けることができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、できることを中心に働きかけている。女性利用者が殆どである為特に家事においてはやりがいや役割になっており、利用者間で競う様子もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者間で外出の頻度や支援内容にバラつきがある。しかし、日常的に玄関先での外気浴や近隣への散歩、買物等各利用者の希望や好みを取り入れたり、体調に配慮しながら個々に合わせた支援が行えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホーム側で行っている。個々の金銭事情に配慮したり、必要に応じて事前に家族の了承を得ることで外出行事や買物等好きな時に使用することができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、手作りの年賀状を郵送していたが利用者の状況により作成が難しくなってきた。現在は面会が困難であるため電話でのやり取りを進めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる範囲で利用者も参加し、共用部分の掃除を行っている。また、寒さに敏感な利用者が殆どであり、窓を開けての換気は難しい面もあるが短時間で終わらせるようにしている。温度・湿度計を確認しながら調整を行っており、快適に過ごせる環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自然な形でテレビ前のソファ席に集まり、共に会話や活動を楽しむ場となっている。また、食堂席や自室、利用者同士がお互いの部屋を訪問する等好む場所で過ごすことができている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものを持参していただくよう事前に伝えており、入居後少しでも安心して過ごせる環境作りに努めている。また、身体状況の変化により、随時本人及び家族と相談しながら居室内の配置換えや物品の購入等行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・わかることは積極的に行ってもらっている。またできない部分もどの程度までなら自分でできるのかを見極めた上で、見守りや言葉掛けをしながら取り組めるよう支援をしている。		